



2010年

9月



擬似体験

西淀川は、だれにとっても移動しやすい町なのか、
いっしょに考えてみませんか？

あおぞら財団では、西淀川交通まちづくりプロジェクト「西淀川の交通・移動について考えてみよう！」を行っています。7月には、みんなにとっての「移動のしやすさ」を考えるために、車いすや視覚障害者、高齢者の疑似体験を行いました【8面に紹介記事】。

(写真は、車いす体験をしている参加者 7月17日
西淀川区役所前の歩道にて)

●目次

特集 We Love 西淀川

変貌する西淀川	山崎 晋一、神吉紀世子	2
地域愛インタビュー		
●だんじりが育む地域の団結	米田幸敏、前山敏且、植木政嘉	4
●住んでいて良かったと思える地域に	平田房夫、井上正裕	5
●職場体験で学ぶ仕事の難しさ	篠田 和美	6
●原点に立ち戻る	藤末 正信	6
●地域全体で行う“子育て”	原 博美	7
「西淀川の交通・移動について考えてみよう!」の取り組み	谷内久美子	8
モノづくりの街・西淀川	編集部	9
データでみる西淀川		
上海万博報告	大矢 篤志	3
〈リレーエッセイ〉あおぞら財団にやってきて…	小林 泰子	10
〈忙中一筆〉地域の力をつないでいく	西川日奈子	12

特集 We Love 西淀川

大気汚染公害で苦しんだ西淀川は、現在その姿を日々変えています。西淀川への思いは人によって違います。変わりゆく西淀川の実態とそこに暮らす人の思いをお伝えします。

変貌する西淀川

住宅地化する西淀川

室戸台風被害を受けた頃には、旧集落と農地が大半を占めていた西淀川では、1950年以降に急激な市街地化がおこって瞬く間に住工混在地域となり、この頃から公害も極めて深刻な状況となった。その後産業構造の転換などで、工場の転出もみられるようになり、住宅系・商業系の土地利用が増えるようになっていった。

現在の西淀川区を歩けば、近年建設された戸建住宅群や中高層共同住宅が目に見える。西淀川区は大阪市内でも有数の人口増加区である。小学校も新設され、子育て世代も多く転入していることが推察される。この傾向は一見すればよい傾向である。若い世代が転入しているのだから。しかし、長い目でみて、魅力ある市街地となる方向へ進んでいるであろうか。工業地域として開発が進んだ市街地において、実現すべき住環境とはどんなものか、住と工の共生をどのように考えるか、という根本的な議論は現在でも必ずしも成熟していない。そのなかで、今も進みつ

山崎 晋一 神吉紀世子

つある住宅開発が、どのように地域全体の環境の改善へと結び付く開発となり得るか、は当面の都市計画上の課題である。

住宅の増加はどのように進んできたのか、とくに中高層共同住宅の開発動向に着目して、把握することに取り組んだのが「工業用途減少地域における中高層共同住宅供給に関する研究―大阪市西淀川区を対象とした統計分析と民間事業者へのヒアリングを通じて―」(山崎晋一著/京都大学工学研究科修士論文(居住空間学講座(高田光雄教授・神吉紀世子准教授)) / 2010年3月)である。

中高層共同住宅の建設動向

区内には2008年までに、235件(開発事業数)の民間開発の中高層共同住宅があり、1980年代後半と1990年代半ば以降にとくに増加した。敷地の従前土地利用(表1、図1)は、件数・戸数でみて工業系施設が全体の半数近くを占める。竣工年と住宅の階数をみると、80年代には神崎川沿いの地域で、1990年代以降には当

時新規開業したJR御幣島駅周辺で11階建て以上の高層の住宅供給が進んだ。2000年代には、11階建以上だがより小規模な敷地に建つ高層の住宅が増加する。なお、同区で工業事業所数や工業土地利用が減少傾向となるのは1990年頃からであり、土地利用として工業が減少する以前から既に共同住宅開発がある程度進んでいたこと、近年の共同住宅の増加は、概ね御幣島駅新設の以降とみられることが確認された。

民間事業者からみた 中高層共同住宅の開発事業

この研究の特色の1つは、こうした共同住宅を開発した民間事業者に着目したことである。西淀川区で事業実績が多い事業者にはヒアリング調査を行った。事業者の視点からみれば、1980年代は大阪大都市圏において、住宅需要がまだまだ堅調で、西淀川での共同住宅開発は、工業系用途地域であることや工業跡地であることから、リーズナブルな価格の住宅を供給すること

表1 中高層共同住宅の従前土地利用別件数・戸数

従前土地利用	工業系施設	商業系施設	住居系施設	駐車場・空地	その他	不明
件数	94 (47.0%)	24 (12.0%)	49 (24.5%)	32 (16%)	1 (0.5%)	35
戸数	9639 (67.1%)	773 (5.4%)	2072 (14.4%)	1130 (7.9%)	756 (5.3%)	-

※住宅地図及び不動産情報サイトより

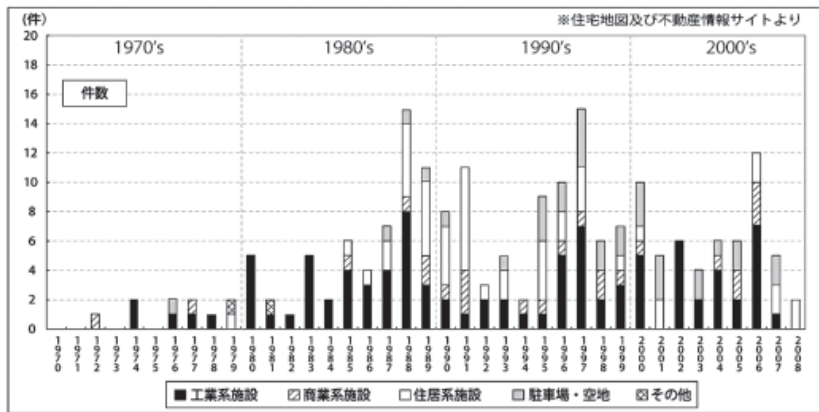


図1 中高層共同住宅の従前土地利用別件数の推移

を旨とする事例とされていたようである。それは、「用地費が相対的に低いこと」「権利関係が複雑でない大規模な敷地が存在したこと」「工業系用途地域では日影規制が緩いこと」等が、事業実施上有利であったということのようである。1990年代、JR御幣島駅が開業するに伴い、周辺の土地が流動化して開発が進んだが、80年代よりも「駐車場の確保」が商品企画で強く求められるようになっていたため、80年代よりも高層化する傾向が強くなる。このころからは、「緑化等の環境配慮」も一部商品の企画では取り上げられるようになってきたという。

2000年代後半には、経済不況等もあり共同住宅開発数の増加は鈍化した。西淀川と同程度の立地条件にある他地域との競争等もあり今後、西淀川での共同住宅がどの程度の速度で増えるかは予測が難しいとも思われた。

1980年代と1990年代以降の共同住宅の増加期では、民間事業者の商品企画の背景が変化している。今後の商品企画に、西淀川のまちづくりの現場から、どのような影響を与えて行くことができるだろうか。

(やまさき・しんいち、かんき、キョー)

上海万博で「西淀川公害」パネルを展示

大矢 篤志



公害パネルの展示を見る人々

環境省は、期間計7,000万人の来場を目標とする、史上最大規模の博覧会『上海国際博覧会』において、「日本館」イベントステージへ出展し(5月24日〜6月3日)、あおぞら財団様から、「西淀川公害」に関するパネルをご提供いただき、展示いたしました。

当初の予測をはるかに上回る、137,840人という多数の方にご来場いただき、公害についてのアピールを行うことができました。

来場者の方からは、「日本は空気がきれいだと聞いていたが、昔はこんなひどかったのか」「咳が頻繁にでて、辛いことがある。もしかしたら公害が原因なのか」など多数のご意見・感想をいただき、公害に関する情報が少ない中国において、非常に有益な展示会が行えたと考えております。

今回のイベント期間中、私が最も印象深かったのが、「空の青さ」です。昨年度から、数度上海に渡航しましたが、青空を見られた日はほとんど無く、晴れた日でもモヤがかかるほどでした。しかしながら、上海国際博覧会に向けた環境改善の成果か、日本と変わらぬ青空を見ることができたのです。この点は、上海市民の方も驚いておりました。

上海の青空を博覧会終了後も残すため、あおぞら財団の皆様のご活躍を期待しております。

(株式会社アサソー・ケイ)



WE LOVE 西淀川
西淀川への思いを聞きました



東之町地車新調を記念して (2010年5月30日)

幕と地車に掛けるせて地車ありません。あわただけでは新調したのは地車のみです。今回、東之町の地車で見ることのできるデザインが随所に見られます。

【取材・北中大輔 (あおぞら財団研究員)】

野里住吉神社夏祭り: 毎年7月31日、8月1日に行われる。祭りは地車の東之町、西之町、中之町と枕太鼓の北之町で構成される。2台の地車が猛スピードで交互に追いかける「追い合い」が見どころ。

間を費やした彫刻はオリジナルで東之町の地車で見ることのできるデザインが随所に見られます。今回、東之町の地車で見ることのできるデザインが随所に見られます。

を収納する蔵も新しくされています。地車保存会の会長を務める米田さんは「地車が世代間の橋渡しをしている。」と言います。



追い合いを行う東之町と西之町



だんじりが育む地域の団結

米田幸敏さん・前山敏且さん・植木政嘉さん
(野里東之町地車)

明日香菓舗

西淀川区御幣島2丁目2-14
電話 06-6471-0382



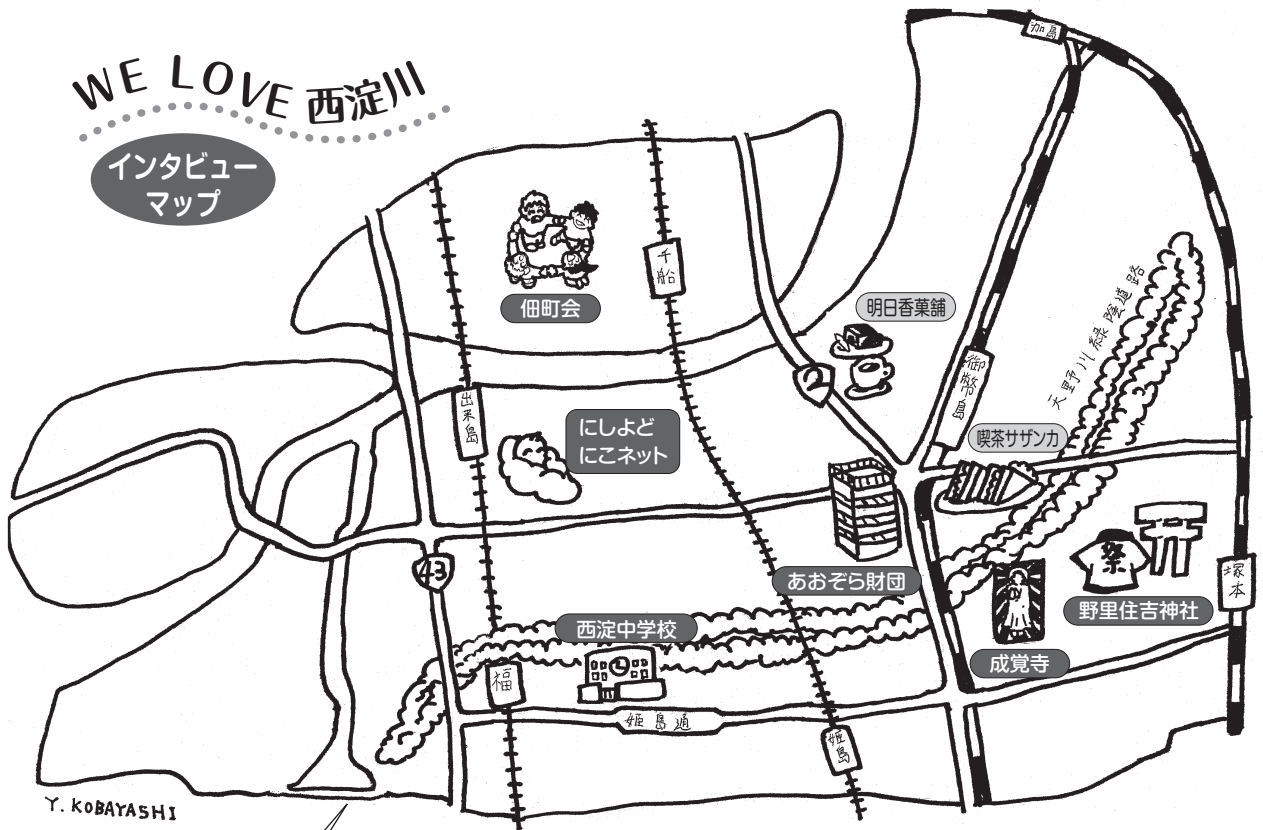
あんパンと塩パン

夜食(パン)などいつでもお世話になっていきます。店主のおっちゃんとは、「うちはパンが安いから、もう一個買ってー」とか「おつりは30万円(30円のことです)」と会話が楽しめます。私と鎗山さんが大好きなのは、定食についてくるお味噌汁と塩パン(70円)。和菓子屋さんなのであんパン(100円)も絶品です。あおぞら財団に立ち寄った際のお土産にいかがですか? (林)

明日香菓舗は「和菓子」「洋菓子」「パン」「喫茶」の4つの顔を持っています。昭和10年創業で、昭和の雰囲気ただよう店内。あおぞら財団では職員がお昼を食べる時や、お茶菓子、

WE LOVE 西淀川

インタビュー
マップ



大阪市における西淀川区の位置



「住みよい地域は自分たちで作るものだ。」と語る平田房夫さん。佃の連合振興町会会長を務め、これまで「高齢者110番ネット」の普及など、佃地域における安全・安心の確保に真剣に取り組んでこられています。「高齢者110番ネット」とは、一人暮らしのお年寄りに見守り役のサポーターを決め、サポーターが定期的に自宅を訪問するという取組です。「最近郵便受けに新聞が溜まっている。床に伏せているのではないか。」など、この取組はそういった普段では気にも留めないようなことに気づかせてくれます。これによりお年寄りも安心して暮らすことができるようになります。



住んでいて良かったと思える地域に

平田 房夫会長、井上 正裕総務部長
(佃連合振興町会)



井上さん(左)と平田会長(右)

また、佃では地域行事が盛んに行われています。ソフトボール大会、まち歩き大会、カラオケ祭りに町会対抗の体育大会など、多くの人が参加し賑いをみせます。町会がこれだけ多くの行事をこなし、佃が一つになれるのは、担当する部長がそれぞれ全力を尽くしているからだ、隣に座る井上正裕さんを向いて平田さんは語ります。
【取材・森井隆二(あおぞら財団研究員)】



大阪市の指定有形文化財に登録された掛け軸

野里の細い路地を少し入ったところに、成覚寺があります。ご住職が優し

い笑顔で迎えてくれました。今回は平成21年に成覚寺所蔵の掛け軸が大阪市の指定有形文化財に登録されたとい

うことで、地域の宝でもある掛け軸を拝見に伺いました。掛け軸は住職のお母さんが掃除をしていたときに偶然見つかったそうです。調べてみると、この掛け軸は約500年前に実如上人から贈られたもので、現在のご本尊ができる前まで信仰の対象として



原点に立ち戻る

藤末正信 住職
(成覚寺)



篠田先生

現在は中学2年生には職場体験として社会を肌で感じる3日間があります。その職場体験を担当する先生のおひとりで、西淀中学校の篠田先生に話をお聞きしました。当初は1日だった職場体験も3日になりプログラムを用意する先生は大変で、特

に今年は生徒数が多く約2000人分の職場体験先を見つけるため、10名の先生で70以上の事業所を訪問するそうです。昨年までのつながりもあり、積極的に受け入れてもらっていますが、休日と重なるなど日程調整に苦労しているそうです。また、受け入れ事業所の希望と体験する生徒の希望を調整するのにも苦労があるそうです。体験を終えた生徒の中には、仕事の



職場体験で学ぶ仕事の難しさ

篠田和美先生
(大阪市立西淀中学校)

難しさ・大変さを知ったり、自分の意外な特性に気づいたりと学校では学ぶことのできないことを学ぶことができるのが魅力と先生は言います。

【取材・森井】

西淀中学校で「西淀川公害」の授業を実施

西淀中学校の2年生が文化発表会に向けて、地域調べをすることになりました。テーマの一つに「西淀川公害」があり、あおぞら財団と患者会が協力して西淀川公害について学ぶ授業を6月24日と7月8日に行いました。



掛け軸の由来を説明する住職

使用していたことが分かったそうです。

キーボードをたしなむご住職は今から約20年前にお堂で音楽ライブを開催するなど地域に開かれた活動を展開されていきました。今は文化財に登録されたことで、地元の団体からも見学ツアーを組みたいとの依頼もきているそうです。

【取材・北中】



WE LOVE 西淀川

西淀川への思いを聞きました



原さん（左端）とお母さんと子どもたち

育てOBも地域みんなでやらないとい
けません」
と語尾を強
めます。
年間1万
人が関わ
るようにな
った今でも
ここに來ら
れる人より、
來られずに
悩んでいる
人が心配で、
少しでも接
点を持つと
いろいろな

原さんの夢は地域全体で子育てを行
つていく仕組みを
作ること。介護保
険制度のように子
育て支援が仕事と
して成立すればも
っと子育てに関わ
る人が増えていく。
夢の実現に向かっ
て今日も、につこ
りRoom、は笑い
声に包まれていま
す。

【取材：北中】

NPO 法人にしよど にこネット：1996年に西淀川区の子育てサークルとして誕生し、現在はサークル支援や子育てマップや情報誌の発行、「にしよど冒険あそび場」・ひろば事業など地域の子育て支援事業を展開。2008年にNPO法人化。電話 06-6195-1303

子育てはいつの時代も悩ましいものです。特に悲しい事件が発生する現在は誰にも頼らず1人で行うのは大変です。そんなお母さんの立場で子育て支援を行っている団体が西淀川区にあります。誰でも来られる大阪市つどいの広場、につこりRoom、はいつも笑い声が絶えません。その輪の中にいるのがNPO法人にしよど にこネット代表理事の原さんです。「子育てはお母さんだけで行うものじゃない。お父さん、祖父母、ご近所、職場、地域の子育てOBも地域みんなでやらないとい

事業を展開しています。西淀川区内のお店や病院がママの目線で掲載されている子育てマップや、地域の子育て支援情報が1つにまとまった情報誌「C.O.O.」は好評です。また、子どもたちと妊婦との交流によって命の大切さを学ぶ「いのちの授業」は、授業だけで終わらせずに家庭でも話し合ってもらうため保護者向けのリーフレットを作成しています。授業後のアンケートも実施し、保護者からの反響も大きく子どもと親の対話のきっかけとなっています。



地域全体で行う「子育て」

原博美さん

(NPO法人にしよど にこネット)



人気のランチ 680円
食後にはマスターが注ぐコーヒーと一口お菓子もつくお得なセット。

お知らせ 9/18(土) 19時
南米フォルクローレライブ開催

も必見。

趣味のマスターのブログ (<http://blogs.yahoo.co.jp/cococo124312>)

喫茶サザンカ

西淀川区御幣島1丁目 1-18
電話 06-6471-1680

明るく開放的な店内では、展示会やライブ(落語寄席、音楽ライブ)など、様々な催しものが開かれます。財団が事務局をする「緑陰道路サロン」や「自転車文化タウンづく

りの会」の勉強・交流会の会場として利用しています。2階の店舗へあがる車椅子昇降機も有り、地域にも人にも優しい店です。マスターに意気込みを伺うと「今年で開店10周年。これからも頑張ります。」とのこと。自転車に落語、旅行にラーメンと多趣味のマスターのブログ (<http://blogs.yahoo.co.jp/cococo124312>)

西淀川交通まちづくりプロジェクト 「西淀川の交通・移動について考えてみよう！」 の取り組み

谷内久美子

取り組みの経緯

あおぞら財団では、西淀川地区沿道環境に関する連絡会、西淀川交通まちづくり意見交換会・討論会などに関わり、西淀川区内の交通・移動環境に対する様々な提言を行ってきました。行政に対して提言を続けていくことは重要ですが、市民自らが提言した内容を実現化し、移動環境を少しでもよりよいものに変えていくという行動も重要です。

本プロジェクトでは、市民が主体となつて、西淀川区内の交通や移動に関する情報を収集し、地域内の交通や移動の課題について話し合います。調査した情報は、マップや報告書等としてまとめ、西淀川区民に広く公開することができたらと考えています。

参加者は、西淀川区内の住民の方々10名程度です。

車いす、視覚障害者、高齢者の視点からまちを見る

西淀川区内で交通や移動に関して困っている人がいるということに参加者みんな

共有するために、第1回は車いす利用者の視点から、第2回は視覚障害者と高齢者の視点から、会合を行いました。

第1回は、7月17日に、車いす利用者の梅紀久代さんをお招きして行いました。まず、車いすであおぞらビルの周辺の道路を走行してみても、まちなかの不便さを体感してもらいました。歩道にある小さな段差、勾配によって、車いすがかなり動きにくくなるのがわかったという声が多く出ました。次に梅さんからは車いすからみた西淀川区内の移動環境やユニバーサルデザインについてお話ししてもらいました。

第2回は、7月24日に、視覚障害者の山本美恵子さんをお招きして行いました。この日は、高齢者の疑似体験と全盲者の視覚障害者体験を行いました。参加者の方からは、視覚が失われることで、いかに歩行する際に視覚から得る情報に頼っていたかを体験することができたという意見が出ました。

みんなにとって移動しやすい町を考えていくためには、自分だけではなく多様な人の視点を想像することが必要です。第1回、第2回の会合を通して、参加者



車いす体験の様子

のみなさんは車いす、高齢者、視覚障害者といった多様な視点からまちを見ることのできるようになったのではないかと思います。

今後の取り組み

8月21日には、第3回の会合を行い、今後、西淀川区の市民として、どういった取り組みをするかを話し合います。財団からは、みんなで集めた情報をマップにまとめていくことを提案していますが、みなさんとの話し合いの結果、他の活動に取組み可能性もあります。9月以降は、第3回の会合の内容を受けて、具体的にまちなかに入っていく予定です。

この取り組みが、市民が主体的にまちづくりに取り組むきっかけになることを目指して、参加者のみなさんと共に活動していきたいと思っています。

(たにうち・くみこ あおぞら財団特別研究員)

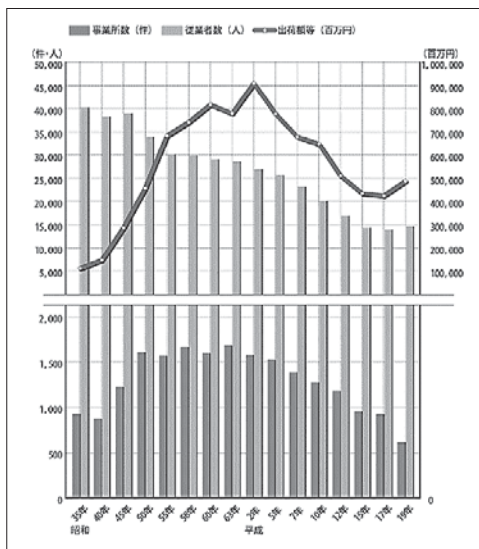


視覚障害者体験の様子

モノづくりの街・西淀川

かつて住工混在地域としての西淀川地域が有していた「モノづくりの街」としての風景は減り続けています。併せて、そこで働く人々の「モノづくりへの誇り」、産業

とともにあった「まちの活気」も薄らぎつつあります。農村から住工混在地域へと移り変わってきた「まちの記憶」、それぞれの工場で積み上げられてきた「技術」、雇用を確保する「職場」は、次世代に引き継いでいくべき、大切な財産です。あおぞら財団は「公害反対」⇨「工場反対」と誤解されることもありますが、適正な産業は地域に不可欠なものです。現在、工場を適正に維持し、住宅地とも折り合いをつけ、より良い地域として発展させていくための試みが西淀川区でも始まっています。



出典：平成20年度工業統計調査
西淀川区の工業の推移
(西淀川区役所のホームページより抜粋)

モノづくりまつり2010

区内のものづくり企業の魅力に触れてもらうイベント「西淀川ものづくりまつり2010」が2010年8月7日(土)に区民ホールで開催されました。これは、西淀川区工業活性化研究会、西淀川工業協会、区役所がつくる同まつり実行委員会が主催したもので、区内の約40の企業・団体が参加し、約900名が入場しました。参加者は、区内の企業の紹介コーナーや工具を使った車の模型制作体験、鋳物作り体験、ロボットの導入によるサッカー実演やお好み焼き機ロボットの実演などを楽しみました。

工業の町、西淀川

2面の「変貌する西淀川」にもあるように西淀川区では住宅開発が進み人口が増加しています。その一方で、西淀川は工業の町でもあります。大阪市内の他区と比較しながらその実態をみてみます。事業所数を見ると、生野区(1087事業所)、平野区(1075事業所)に次いで多くなっています(635事業所)。従業員数をみても平野区(1万5179人)、淀川区(1万4940人)に次いで多くなっています(1万4459人)。また、製造品出荷額等をみると、淀川区(8181億円)に次いで多くなっています(5

421億円)。これは大阪市全体の製造品出荷額等の11・8%を占めるほどです。これらのデータからも分かる通り、西淀川は現在でも有数の工業地帯を形成しています。

グラフにあるように、従業員数と出荷額等はここ数年増加していますが、事業所数は減少のままです。廃業する工場も多くその跡地が住宅開発されていると考えられます。

工業保全地区条例が制定

宅地開発されている地域では工場とマンションが混在して様々な問題を抱えています。この状況を踏まえて、平成22年4月に「大阪市工業保全地区内における建築物の制限に関する条例」が制定されました。これは西淀川区竹島・御幣島地区において、原則として住宅、共同住宅、老人ホームなどの建築物の建設を制限するものです。これにより工場と宅地の混在が避けられ、従来どおり操業することが可能になります。



指定特別用途地区の指定地区(西淀川区竹島・御幣島地区)
「特別用途地区(中高層階住居専用地区・工業保全地区)
について」(大阪市計画調整局作成)より抜粋

ほっと ニュース

評議員会、理事会を開催
第26回評議員会を6月16日に、第35回通常理事会を6月24日に開催しました。(会場はいずれも西淀川公害患者と家族の会 付属グリーンルーム)会議では、2009年度事業報告書案と2009年度決算書案が審議され、全会一致承認しました。

伊賀市上野東小学校 買い物ゲームで環境学習

6月28日、フードマイレージの講師として伊賀市上野東小学校5年生の授業に参加しました。

買い物ゲームを使って、子どもたちに毎日食卓に並ぶごはんの食材が現在と過去とは異なっていること、食材が産地から食卓に並ぶまでに排出されるCO₂(フードマイレージ)についてなどを伝えました。

このゲームは班ごとに配られるカードに、それぞれ違いがあります。現代と1970年代の春夏秋冬あわせて8種類のカードがあり、選べる移動手段、旬による食材の種類、価格などが異なります。その中で自由に献立を決め、買い物をするのですが、結果的に現代のカードを使った班の方が1970年代のカードを使った班よりフードマイレージが多くなりやすいのです。それは、高速道路の発達により、遠くで生産された食材がいつでもスーパーに並ぶようになったためです。

ゲームを終えた後、子どもたちはフードマイレージ、食文化の変化などについて勉

強します。実際にゲームをして体験することで、フードマイレージがどういう意味を持っているのか、より理解してもらえたのではないのでしょうか。

韓国司法修習生来訪

7月5日、韓国の司法修習生ら12名がおぞら財団を訪れました。籠橋隆明弁護士から「日本のダム訴訟」、村松昭夫弁護士から「日本の環境訴訟と弁護士役割」についてそれぞれ講演を受け、専門的な知識や意見をやり取りしました。財団の活動紹介をした後、岡崎久女さんから公害被害の体験を聞き、「何故苦しい裁判を続けることができたのか?」「西淀川から他の地域に移転することはできなかったのか?」など率直な質問がありました。

午後5時から始まった懇親会では、腕を組んで同量のお酒を飲み干す韓国式の飲み会で財団のメンバーと親交を深め、西淀川公害患者と家族の会が用意した食事に舌鼓を打ちました。

タンデム自転車に乗りました

「タンデム自転車と出会う会」を7月25日に守口市視覚障害者福祉協会の主催、あおぞら財団他の後援で開催しました。開催日は最高気温が36度を超えるとても暑い日でしたが、110名もの方の参加がありました。スポーツタイプも含めて14台のタンデム自転車で試乗会を行いました。

リレーエッセー

あおぞら財団にやってきて…

小林 泰子



リベラを読んでいる皆さん、こんにちは。アルバイトの小林泰子です。絵を描くことと、自由気ままに空想することが好きです。

アルバイトとして過ごし、リベラで紹介されているような、財団が行う様々なまちづくりの取り組みを知ったり、お手伝いをする内に、自分の住んでいる街や他の色々な事をよく知らなかったし、知ろうとしていなかったなあ、と感じました。ずっと同じと思えることの中に、新しいことや変化を発見したり、

楽しみを見つけることは大切な、と感じています。そうして過ごす日々は、街も人も環境も、豊かに輝いて見え、生活する上で自分も良い関わり方ができるだろうな、と思えてきました。

芽生えた学びと願いを大切にして、少しでもそんな風に生活していきたい、と思っています。

(こばやし・やすこ
あおぞら財団アルバイト)

- 1日(火) 軒先そうじの日
事務局会議
- 2日(水) 埼玉大学共生センター調査
- 3日(木) 全国公害被害者総行動デー(参加)
- 4日(金) 神奈川県立川崎図書館調査
全国公害被害者総行動デー(参加)
- 5日(土) 渋谷共同法律事務所調査
- 7日(月) 矢倉海岸定例探鳥会
ECOまちネットワーク・よどがわ編集会議
東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会(委員:藤江)
- 8日(火) 事務局会議
職員面談
- 9日(水) ECOまちネットワーク・よどがわ運営会議
- 10日(木) ESD会議
広報会議
- 11日(金) ボランティアの日
寒河江青年会議所フードマイレージ講義(林)
第2期 環境ボランティア講座 第1回
- 14日(月) 事務局会議
あおぞらプロジェクト幹事会
新公益法人制度個別相談会(参加)
- 15日(火) 大阪教育大学社会文化講座研修西淀川地域フィールドワーク受入
- 16日(水) 西淀川記憶あつめ隊
評議員会
- 17日(木) てづくりせっけん教室
大学史研究会受入れ打合せ
- 18日(金) 第2期 環境ボランティア講座 第2回
資料館スタッフ会議
AP助成金プレゼン
- 21日(月) エコドラ会議
- 22日(火) 事務局会議
自転車文化タウンづくり幹事会
資料館定例会議
- 23日(水) 鳥取環境大学講義(講師:林)
自転車寺子屋
- 24日(木) 将来構想委員会
西淀中学校2年生授業(林、鎗山)
理事会
- 25日(金) スタディツアー会議
- 27日(日) フードマイレージ教材化研究会
- 28日(月) 伊賀市立上野東小学校フードマイレージ(講師:林)
- 29日(火) 事務局会議
- 30日(水) 子どもの参画けんきょう会
伊賀市立猪田小学校フードマイレージ(講師:林)
伊賀市立依那古小学校フードマイレージ(講師:林)

6月

事務局日誌

7月

- 1日(木) 伊賀市立上野東小学校フードマイレージ(講師:林)
- 2日(金) ボランティアの日 リベラ発送
第2期 環境ボランティア講座 第3回
- 3日(土) 矢倉海岸定例探鳥会
東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会(委員:藤江)
- 4日(日) 千舟町会見学受入れ
自転車文化タウンづくりの会 サイクルツアー
- 5日(月) 韓国司法修習生受入
- 6日(火) 事務局会議
- 7日(水) 軒先そうじの日
- 8日(木) 東淀川区コンベ説明会
広報会議
- 11日(日) 西淀中学校にて公害患者語り部授業
- 13日(火) 公害地域の今を伝えるスタディツアー-2010事前勉強会(都留文科大学)
事務局会議
- 14日(水) 守口市タンデム試乗会下見
ECOまちネットワーク・よどがわ編集会議
ECOまちネットワーク・よどがわ運営会議
中央区ヒアリング
- 15日(木) 佃中学校役員会菜の花プロジェクト説明
第2期 環境ボランティア講座 第4回
- 16日(金) 西淀川交通まちづくり第一回
- 17日(土) 大阪経済大学地域社会調査授業
- 18日(日) 公害地域の今を伝えるスタディツアー-2010事前勉強会(あおぞら財団)
- 20日(火) 事務局会議
- 21日(水) セミのぬけから調べ下見&事前勉強会
全国大学史資料協議会西日本本部受入れ
- 22日(木) あおぞらプロジェクト街頭宣伝
資料館定例会議
- 23日(金) 佃地区5-1町会廃油回収取説
- 24日(土) 西淀川交通まちづくり第二回
きんき環境館/パートナーシップ団体交流会
佃地区町会役員会菜の花プロジェクト説明
西米寺寺子屋にてキャンドルづくり
- 25日(日) タンデム自転車試乗会 in 守口
西米寺空手教室にてキャンドルづくり
- 26日(月) ESD会議
- 27日(火) 事務局会議
東淀川区トライアル審査
上町台地MHZ協議会
- 28日(水) 自転車寺子屋
- 29日(木) 公害地域の今を訪ねるスタディツアー一括会議
- 30日(金) ぜんいん患者懇談会(千北診療所)
「大気汚染と裁判」ホームページコンテンツ制作業務検討会
ECOまちネットワーク・よどがわ編集会議
大阪経済大学 地域社会調査
- 31日(土) JICA大阪国際教育セミナー(講師:林)
2010年6月のNO2カプセル測定の結果報告と交流会(参加)

【編集後記】 今年の夏はとても暑かったですね。そんな中、あおぞらビル一階の改修工事をボランティアの方たちと一緒にしています。日曜大工の経験はあるものの建物を造るのは初めてで四苦八苦しながらも、10月オープンを目指して着々と工事を進めています。完成後は地域住民の交流の場として活用する予定です。お近くまで来られましたら、ぜひお立ち寄りください。詳しくは次号でご紹介します。(K)

お知らせ

矢倉海岸定例探鳥会

(日本野鳥の会大阪との共催)

日時 10月2日(土)、11月6日

(土) 午前9時30分〜午前

11時30分頃

集合 阪神電車なんば線「福」駅

改札口 午前9時30分

場所 矢倉海岸公園

あおぞら財団「ボランティアの日」

日時 10月1日(金)

11月5日(金)

場所 あおぞら財団事務所内

(例外あり)

時間 午前9時30分〜午後5時30分(応相談)

淀川親子はせ釣り大会

日時 10月16日(土)

場所、集合時間など詳細はお問い合わせください。ブログでも随時お知らせします。

お礼

(6月・7月 敬称略)

●寄附・寄贈者

井関和彦、伊藤卓次、井上善雄、上田幹枝、(有)大阪ファルマプラン、

●お助けボランティア参加者

大野みさ子、浅井真二、小坂茂樹

西淀川でキャンドルナイトをします!
廃油キャンドルを作ろう
日時 9月18日(土) 午後2時〜3時
場所 西淀川図書館

沖縄県公文書館、尾崎寛直、川崎美栄子、蔵本幸治、(株)神戸製鋼所
法務部、国文学研究資料館、小林俊康、是枝洋、佐賀朝、酒井健一、清水万由子、庄谷邦幸、芹沢芳郎、津留崎直美、豊中市、中島晃、中杉喜代司、西口勲、原田智代、牧隆三、松村暢彦、みずしま財団、村松昭夫、吉村良一、金谷邦夫

『Libella』No.116 2010年9月号(隔月1日、年6回発行)

発行所 (財) 公害地域再生センター (あおぞら財団)

編集人 眞銅麻衣子

大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階

Tel.06-6475-8885 Fax.06-6478-5885

http://www.aozora.or.jp/

E-Mail webmaster@aozora.or.jp

印刷所 あゆみコーポレーション

定価 一部400円(郵送料込み)

会員の購読料は会費に含まれています。

郵便振替口座 00960-9-124893 (加入者名 あおぞら財団)

乱丁・落丁はお取り替えます。本紙掲載記事の無断転載を禁じます。



にしかわ ひ な こ
西川日奈子

西淀川区出身。CAP(子どもへの暴力防止)と保護司の活動を10年以上続けるほか、大阪保健医療大学の学生相談室でカウンセラーも務める。NPO法人西淀川子どもセンター代表理事。

子どもたちの人権がきちんと尊重され、地域の力をつないでいく拠点をめざして

「地域ぐるみの子ども支援を」と、NPO法人西淀川子どもセンターを立ち上げてもうすぐ3年になります。学生時代から子どもたちに関わりつづけ、自分の子育ても経て、その日々の中で見えてくるものに取り組んでいるうちに、現在の活動に至りました。さまざまなか縁に温められながら、その度に自分のありようも捉えなおす今日この頃です。

子どもの眼から

わたしは、公害ピーク時に西淀川区で生まれ育ち、父はその町工場の2代目社長でした。父は環境破壊に関して自分が加害側であることを気にしていましたが、子どものわたしは身内の特権(?)で危険物いっぱい広い工

場内のあちこちで好き放題に妹や友だちと遊びました。外を歩いていると、廃液のニオイがすさまじくて鼻をつまんで走り抜けねばならない道、メタンガスがポコポコ湧き上がるドブ川(現在は緑陰道路)へ石投げ遊び、墓地でのかくれんぼ…ずっとそんな地域がわたしの「ふるさと」の思い出です。自然環境は超劣悪だったのに、それらは少しのんびりして、年齢のせいかなつかしくさえ感じます。でも後年、見えない原子力等の怖さを思うときには、自分の原風景が重なります。

また、わが家の真向かいに、旧西淀病院があつて、そのロビーや玄関先でもよく遊びました。当時、ベトナム戦争や核実験のニュース写真が病院廊下に大きく掲示されていて、今でもその写真のいくつかが思い出せるくらい、戦争への疑問や恐怖を感じました。

地域で育つ

地域のあちこち、病院でも工場でも通りでも、人々は子どもの遊びには、寛容かほったらかしでしたが、よく声はかかりました。「もう夏休み?」「お父さんそっくり」「背が高くなった」等等。小学生時代のわたしは、おてんば満開だったのか、学校帰りの道沿いのいろんなお家でお茶を飲ませていただいたり、親の悪口を言いふらしたり、寄り道探検した

り、と現在なら許されない下校ぶりを重ねていたようです。本人がとくに忘れていたことを、近隣のおっちゃんおばちゃんが覚えていたりします。

中学校時代は学級活動が盛んで、その時代を少しでも共有する人々が地域にいることも、活力源となっています。

一人ひとりの物語

大人は「自分が子どもだったこと」を都合よく忘れて、子どもを一方的に心配したり支配しがちです。また、自分のありようが不安定では、子どもの思いに関心を向けることは難しいものです。人があたりまえに出会うことが難しい時代となった今こそ、まず「自分の物語」を大切に感じなおして、人生の前半を生きている子どもたちを、近くで支援していこうと思います。

すべての子どもたちは、この世に1人しかいない大事な存在です。どのような個性であっても、どんな事情があっても、どういふ環境であっても、どんな出来事が起きても、子どもたち一人ひとりの人権がきちんとして尊重され、体と心の安心が守られて、その成長をよるこびあえるような、地域の力をつないでいく拠点のひとつとなれるよう努力します。(会報より)